

つるみの風

つるみの風 第54号
2024年9月28日発行
鶴見聖契キリスト教会
〒230-0074 横浜市
鶴見区北寺尾1-16-7
TEL 045-572-0857

勝ち組負け組、超越組

いくら「暑さ、寒さも彼岸まで」と言ったところで、その「まで」直前が三五度超えの猛暑では風情もなにもありませんね。

サンマが豊漁なのは明るいニュースとしても、九月に勃発した「令和の米騒動」の一因が昨年夏の猛暑と聞けば、来年秋は大丈夫なのか、と心配にもなります。迷走台風や各地の洪水など、とにかくこの夏は大変でした。とはいえ、暦は確実に前へ進み、一七日夜は美しい中秋の名月が見られました。鶴見在住の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

ふだんスポーツに興味がない人でも、新聞の一面やニュース項目のトップを飾る大谷翔平選手の活躍はご存知でしょう。この原稿を書いている前日、本人曰く「生涯忘れられない日」となった五〇・五〇（本塁打数・盗塁数）達成の日でした。本紙が皆さんのお手許に届く頃、どこまでそれが更新されているか、想像もできません。暗く悲しい、そして腹立たしいニュースばかりの昨今ですから、こうした一服の清涼剤は心に染みますね。

●あなたは「〇〇組」ですか

世では「勝ち組、負け組」という嫌な組み分けが取り沙汰されます。考えてみると、こんな無粋な分け方をするのは、自分がどちらにも入らないと気取ってはいても、実は「勝ち組」とおぼしき人々をやっかみ、自分だってチャンスさえあればそうなれた

のに、と「タラレバ」症候群に陥っているからかもしれないね。

反対に「勝ち組」は、そうなるべくしてなった人々ですから、そこまでの自意識はなく、他者との比較にはまったく興味がありません。むしろ、仮に比較を始めて優越感に取りつかれた瞬間「負け組」への転落が始まるでしょう。大谷選手の場合は「好きこそものの上手なれ」を地でいく人だからこそ、本人は飄々（ひょうひょう）たる自然体ですし、契約金や豪邸云々で騒ぐのは周りだけかもしれないね。

●偏愛対象から地下牢、そして

聖書には、「勝ち組」と「負け組」を乱高下した結果、「超越組」（これは思い付きの造語）へと昇格（？）した人々がいます。ご紹介しましょう。その筆頭は旧約聖書・創世記に登場するヨセフです。ユダヤ人の祖アブラハムの孫ヤコブが愛した妻ラケルの長子で、あからさまな偏愛の対象、いわば「勝ち組」でした。

それを本人がどう受け止めていたのか聖書には明記されていませんが、良く言えば無邪気、悪く言えば無頓着で、将来自分が一族の中心に立つ夢をペラペラしゃべったことで兄たちの恨みを買って、隣国エジプトへ奴隷として売り飛ばされてしまいます（創世記三七・二八）。

エジプト王ファラオの侍従長に買われたヨセフは、自暴自棄にならず信頼を勝ち得るも、主人の妻の誘惑を退けたことで恨まれ地下牢へ。落ちる所まで落ちた「負け組」に甘んじます。しかし何年も後、夢を解く能力が知られたことでファラオの前に召喚され、一日にして地下牢の囚人からエジプトの宰相という「ウルトラ勝ち組」へ抜擢されることに。

●もはや勝ちも負けもなく

彼はその能力をいかんなく発揮してエジプトを飢饉から救い、隣国ユダヤから穀物を買いに来た兄たちと、二二年ぶりに再会することとなります。最強の国エジプトの総理大臣と、飢饉で穀物を買いに来た兄たちの対面。これ以上の「勝ち組対負け組」はないでしょう。でもヨセフにはわかっていました。彼が乱高下の人生を経てこの地位に置かれたのは、「勝ち組」を誇って兄たちを見下すためではなく、父ヤコブと兄たち一族を救うため、もつと言えどそこからユダヤ民族が形成され、世界の祝福の基になるためだったことを。このすべてを導いたのは主なる神でしたし、主はいつもヨセフとともにいられたのです。ヨセフは、もはや勝ちも負けもない「超越組」（へと昇格したのでした（創世記四五・五〜八））。



●若き律法学者・教会迫害者

新約聖書に収められた十三の手紙の著者パウロも、勝ち組と負け組を乱高下した人物。学問の都タルソに最初の王サウルを輩出した名門ベニヤミン族の末裔として生まれサウルを名乗り、生来のローマ市民権を所有、エルサレムに留学して稀代のラビ・ガマリエルの門下生として将来を約束された若きパリサイ派律法学者。学識と熱心さでは誰にも負けない、絵に描いたような「勝ち組」でした。その彼が、

最初の殉教者となったステパノの凄惨な死の場面に立ち会ったのは（使徒の働き七・五八）。ステパノは初代キリスト教会の奉仕者として選ばれた、知恵と神の霊に満ちた信仰者でしたが、保守的ユダヤ人たちから恨まれ妬まれたあげく偽証で最高法院へ引き出されます。神の霊に満たされたキリスト者の輝きと正しさを、透明な姿が眩しすぎて耐えられず、宗教家たちは彼を亡き者にしたので、十字架の後復活して天に上げられた栄光のイエスを見上げるステパノの、まるで御使いの顔のような姿、自分に石を投げる者たちの赦しをとりなす祈りを目撃したのが、そこに居合わせ、ステパノ処刑に賛成していた青年サウル、後のパウロでした。「負け組」であるはずのステパノがなぜ晴れやかに死んでいったのか、「勝ち組」サウロの従来哲学では全く理解できず、彼はそれを振り払うかのように、教会迫害を加速させ、ダマスコ（シリアのダマスカス）へと急ぎました。

●人生最大の挫折から超越し

その途上でサウロは復活のイエスに出会ったのです。それが実際にどんな体験だったのか知る由もありませんが、「主よ、あなたはどなたですか」と訊ねて「わたしは、あなたが迫害しているイエスである」（使徒九・五）との答えを受けた衝撃たるや、想像に難くありません。自他共に旧約聖書学者の頂点と認めていた自分が、事もあろうにその結論として天から下ったイエスを認めず、理解もせず、キリスト教会潰しに邁進していたとは。彼は「どん底の負け組」に転落、盲目の弟子アナニヤの按手で目からうるこのようなものが落ちて生

まれ変わります（「目からウロコ」の由来はこれです）。今度は逆にサウロが保守的ユダヤ人から生命を狙われる身となり、ダマスコを脱出、エルサレムから逃げたタルソへ。長い準備期間を経て、彼は地中海世界を駆け巡り、イエスがキリスト、救い主であることをユダヤ人、異邦人に語り続けて諸教会を設立。その活躍ぶりは誰も真似のできないものとなりました。勝ち組の勳章と思っていた生まれも血筋も熱心さも、今や何の価値もない塵芥、「私の主であるキリスト・イエスを知っていること」のすばらしさのゆえに、私はすべてを損と思っています（ピリピ人への手紙三・八）と述懐しています。「超越組」の仲間入りですね。

●神の御子が人へ。十字架と死から復活と昇天、着座へ

究極の勝ち組と負け組を行き来したお方がイエス・キリスト、この事実には異論をはさむ人はいないでしょう。使徒パウロのこぼです（カッコ内は筆者の補足）。「キリストは、神の御姿であるのに（神の御子）、神としてあり方を捨てられぬとは考ええず、ご自分を空しくして、しもべの姿をとり（へりくだり）、人間と同じようになられました（受難肉）。人としての姿をもって現れ、自らを低くして、死にまで（受難）、それも十字架の死にまで従われました（死）。それゆえ神は、この方を高く上げて（復活と昇天）、すべての名にまさる名を与えられました（神の右に着座）。それは、イエスの名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが膝をかがめ、すべての舌が「イエス・キリストは主です」と告白して、父なる神に栄光を帰するためです」（ピリピ二・六〜一一）。

●イエスは主、だから

かのサウロは「主よ、あなたはどなたですか」と問うて、「わたしはイエスである」と知らされました。両者をくっつければ、「イエスは主」との告白になります。これこそ、初代教会でイエスの弟子たちが呼び交わしていた合言葉。だからイエスを信じる者は、乱高下の人生を歩んでも、イエスは主、私の主人であり私の神と告白して、ステパノやパウロのような超越した歩みが出来るとなるのです。

イエスは主、だから勝ち負けの人生観から解放され、今置かれている立場や境遇をイエスの支配下にあつて許された状況と受け止める。これこそ「神の国に生きる」ことかもしれません。超越組の大谷くんは今日もサラッと言うでしょうね。「記録も大事だけど、ボクはチームのため全力を尽くすだけです」と。



<定期集会案内>

- 主日礼拝 毎週日曜日 午前10時30分
 - ★一週間の始まりを、まことの神礼拝から。初めての方も歓迎です。新型コロナウイルス対策に努めながら礼拝を実施しています。聖書と讃美歌集はお貸しします。
 - 参加をご希望の方は事前にご連絡をお願い致します。
- 祈禱会 第2第4水曜日 午後7時30分
 - 参加をご希望の方は事前にご連絡をお願い致します。
- みことばの分かち合い 第2日曜日 礼拝後(変更になる月があります)
 - ★聖書/信仰書を皆で読み、学んだことや感想を分かち合い、深く味わう会です。
 - お問い合わせは、電話045-572-0857 牧師: 関野祐二までどうぞ。